

## 施策評価調書【令和7年度実施事業】

政策名	7 地域が輝くまちの創生	関係課名	蒲江振興局
施策名	9 海の恵みを活かすまち蒲江 ～蒲江地域～		
総合計画頁	P114～115		

## 【1-1 主な取組】

主な取組	ア	イ	ウ	エ
	蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発	蒲江ブランドの情報発信と定着	交通インフラの整備促進	施設を活用した交流拠点づくり及び空き店舗活用
主な取組	オ	カ	キ	ク
	大規模災害を想定した防災・減災対策を推進			

## 【1-2 主な取組の実施状況】

主な取組	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
ア	<p>(ア) マリンスポーツやトレッキングなど自然環境をいかした観光プランの確立 ・自然環境をいかした観光地の確立を行うため、仙崎つつじ祭り(実績:約700人)や第4回かまえウォーキング大会in仙崎・高平山(実績:101人)などに補助交付金の交付及びイベント支援を実施した。</p> <p>(イ) 水産業などの地場産業を絡めた観光の企画実践 ・佐伯市立佐伯鶴谷中学校で蒲江地域の水産業や観光業などに関する講演を実施した。講演後、生徒は蒲江地域を訪れ水産業や観光地の現地視察を行うことで水産業や観光業の現状を周知することができた。 ・かまえウォーキング大会では市内で「寒ぶり祭り」が開催される時期に合わせて蒲江産養殖ブリを使ったぶり汁やぶりの薫焼きを提供し、養殖ブリの魅力を発信した。</p> <p>(ウ) 離島(屋形島・深島)を始めとする滞在型観光の推進 ・東京都豊島区池袋(池袋サンシャインシティ)で開催された「アイランダー2025」に屋形島・深島の代表者4名と参加した。蒲江の離島の自然や食、宿泊施設をPRしその魅力を全国へ発信した。 ・蒲江写真展「O」では「屋形島ゲストハウス」や深島の「innえびすねこ」など宿泊施設のパンフレット配布や離島のポスター掲示を行った。 ・高齢化集落等支援事業で屋形島・深島のパンフレット、ポスター、マナー啓発看板、観光PR動画、離島航路船内に設置するためのパンフレットを作成し、アイランダー等でパンフレットの配布やポスターの掲示、PR動画は市役所内モニターやSNSで配信し滞在型観光地としての周知推進を図った。</p> <p>(エ) 花木の植栽及び保護による観光資源の開発 ・たかひらの会と協働したたかひら展望公園のポケットパークを中心とした環境整備と種から育てた「のじぎく」の植栽を行い、展望公園の魅力アップを図った。 ・高山地区幸せの鐘周辺に蒲江翔南学園中学生がハマボウを植栽し、観光地としての魅力アップを図った。 ・Beach Clean in元猿海岸では元猿海岸の護岸内花壇に参加者によるハマボウ植栽を行い海岸の魅力アップを図った。 ・NPOおおい環境保全フォーラムと協働し元猿海岸の外来植物であるユッカ・リカービフォリア(ユッカラン・キミガヨラン)を駆除し、希少植物であるグンバイヒルガオの自生地拡大を図った。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入
イ	<p>(ア) ソーシャルメディア・SNS等を十分活用した、蒲江の食材を使ったイベントの実施 ・「第4回かまえウォーキング大会in仙崎・高平山」では参加者101人に蒲江特産品のブリを使ったぶり汁、ぶりの薫焼きの試食を提供し、市HPやSNS、新聞、CATVを使って情報発信した。 ・「仙崎公園つつじ祭り」や「かまえ夜祭り」、「蒲江祭り2026蒲江まるかじりフェア」、「春爛漫!かまえ祭り」を補助事業で開催し、新聞やTV、市HP、SNSなど各種メディアを活用して蒲江の食材を盛大にPRした。</p> <p>(イ) 関係者や関係機関と連携し、蒲江ブランドの発信と県内外でPRイベント、キャンペーン等を実施 ・補助事業である「蒲江のにぎわい創出事業」では大分県漁協青年部による「タッチプール」の設置、「岩カキ祭り」のPR支援、「別府鉄輪マルシェ」や佐伯豊南高校「紫豊祭」、日田市「鯛尾金山祭り」に参加し、蒲江特産品のPRを行った。また観光まちづくり佐伯による福岡メディア廻りの同行しメディアを活用したPRを行った。</p> <p>(ウ) オーガニックについての研鑽・研修を重ね、蒲江ブランド力の向上につなげていく取組の実施 ・佐伯鶴谷中学校の講演会において、蒲江地域の現状や観光業、水産業について講演し、若い世代への蒲江ブランドの学習を行った。 ・Beach Clean in元猿海岸では海岸清掃に加え、元猿海岸で生まれたアカウミガメの展示や定置網にかかったアオウミガメの放流、海上保安庁職員による講演、自然環境に関するブースの設置などSDGsの取組を行った。 ・海亀の産卵場所として保全に取り組んでいる元猿海岸のアカウミガメをモチーフに蒲江地域のイメージキャラクターを昨年度作り、そのキャラクターを使ったステッカーやぬいぐるみを制作した。イベントでの配布や観光施設等へぬいぐるみの設置、各種PR時にキャラクター画像を掲載するなど美しい自然が残る蒲江というブランドの認知度向上を図った。</p>	<input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う <input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う <input type="checkbox"/> 3 改善を行う <input type="checkbox"/> 4 その他 ※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入

ウ	<p>(ア) 国道388号楠本工区及び県道古江丸市尾線葛原浦丸市尾浦バイパストンネルなどの整備に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年7月9日に定期総会を開催し、本年度の事業計画及び県への要望事項を確認した。</li> <li>令和7年8月6日に佐伯市選出の県議会議員と本年度県への要望事項についての意見交換会を実施した。</li> <li>令和7年9月30日に大分県佐伯土木事務所長に要望書を提出した。(出席者：会長、副会長、建設部長ほか)</li> <li>令和8年1月19日に大分県土木建設部長へ要望書を提出(出席者市長、県議、議長、建設経済常任委員長、市建設部長ほか)した。</li> </ul> <p>【県への要望事項以下】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国道388号線(畑野浦～楠本間)の事業促進(合併支援)</li> <li>○県道古江丸市尾線(葛原～丸市尾間)の事業促進</li> </ul> <p>(イ) 公共交通機関を活用した交通体制の検証・整備</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和3年10月より民間路線で市がコミュニティバスの運行を開始した。区長会要望の新設バス停を含めて利用状況を把握している。バスの定期券、回数券等を振興局及び管内の4出張所で販売するなど住民の利用促進を図っている。利用者は移動手段を持たない高齢者が多く、時刻表の問い合わせがある市民には「マイ時刻表」を作成するなどして、公共交通の利用促進を図っている。高齢者教室等で利用促進に向けた啓発を実施した。本年度4月1日にダイヤ改正が行われたが特にトラブルもなく現在に至っている。</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 3 改善を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 4 その他</p> <p>※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>
エ	<p>(ア) 施設を活用したスポーツイベントやコミュニティ活動の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>旧波当津小学校では、校舎の中に様々な美術作品を展示した「波当津美術館」が開設され、これまで市内外から多くの方が訪れている(年間1万人以上)。また地域住民が集まる憩いの場としても活用されており、振興局においては、SNSでの発信や美術館のパンフレットを佐伯市観光案内所や地域総合案内所に設置するなどして、情報発信を行っている。</li> <li>第4回かまえウォーキング大会in仙崎・高平山では今年初めて仙崎つじ公園をスタート・ゴール地点として設定し市内外参加者にフジツツジの自生地としてPRした。またたかひら展望公園やキャンプ場もイベント会場として活用し、蒲江の美しい景色をPRした。</li> <li>かまえインターパークで開催されたイベントにあわせてかまえインターパーク地域総合案内所にて蒲江写真展「〇(まる)」を開催し、蒲江地域の景観が素晴らしい観光資源のPRを行った。また写真の撮影地を地図に落とし込んで掲示することにより、周遊観光を図った。</li> <li>令和5年度より取組を始めた蒲江地域コミュニティは令和5年度に話す会を各地域で実施し、令和6年度には考える会を終了、令和7年度の設定準備会で蒲江地域コミュニティの設立が決定した。3月21日に設立総会を開催し、令和8年度以降の事業計画が決定した。</li> <li>佐伯市観光協会蒲江支部が解散したことを受け、今後の蒲江地域の観光事業について考える若者の話す場をつくり、令和7年3月に第1回の話し合いを開催した。令和7年度はBeach Clean in元猿海岸で協賛品の提供やイベントの司会など協働して開催した。今後も様々な意見聴取を行いながら協力体制を整え、蒲江地域コミュニティや各種事業の協働を図っていく。</li> </ul> <p>(イ) 施設を活用した養殖業の研究など、あらゆる分野からの参入者の掘り起こし</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和4年度には学校グラウンドを利用した養殖業など地元団体より相談はあったが、実施まで至っておらず、新たな相談もない。</li> </ul> <p>(ウ) 空き家・空き店舗の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度の空き家バンクへの登録件数は15件で、そのうち2件が売買契約が成立している。その他13件は現地案内にとどまっており、空き家の活用については13.4%となっている。</li> <li>旧蒲江振興局庁舎跡地の利活用については令和3年度に離島航路利用者トイレ・駐車場が完成し、供用開始となった。公売が残った残地については、離島用駐車場と利用しているがその他の利活用は関係部署で協議している。</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 3 改善を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 4 その他</p> <p>※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>
オ	<p>(ア) 自主防災会、消防団、防災士等と連携し、地域防災力強化のための訓練を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>南海トラフ地震を想定した地域津波避難訓練を令和7年11月9日(日)に各地区で実施し、避難経路の再確認、要支援者の把握を行った。また、各地区区長より消防団や防災士へ参加要請を行い連携を図った。蒲江管内の参加人数は693名</li> </ul> <p>(イ) 住民や来訪者にわかりやすい避難路や避難地の誘導標識等を設置及び更新</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存の主要避難場所については誘導標識等の設置が完了しており、新規避難場所の追加はなかったため、設置の必要はなかった。</li> </ul> <p>(ウ) 各地区の津波対策用備蓄倉庫配備品の賞味期限満了時の更新推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和7年度における賞味期限満了による備蓄食糧品の更新は6地区、資機材の追加整備を3地区が行った。</li> <li>各自主防災会が危機管理意識を持ち、市からの補助金を活用し積極的に備蓄品の整備が図られている。</li> </ul> <p>(エ) 避難行動要支援者支援プランに変更があった場合の自主防災会、社会福祉協議会等と協議</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和6年年度末時点で43行政区のうち40地区が支援プランを作成。残り3地区は該当者がいないため作成していない。</li> <li>支援プラン対象者の新規作成希望や登録内容の変更が生じた場合、プランの作成、変更の補助等を随時行っている。令和7年度はプランの変更を行っていない。</li> </ul> <p>(オ) 防災・行政ラジオの設置促進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>蒲江地域令和8年2月末現在、世帯数に対しての申請率は85.2%であり、申請数に対しての設置率は90.2%である。(佐伯市全体の申請率：73.9%)</li> </ul>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 3 改善を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 4 その他</p> <p>※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>

【1-3 主な取組（R7年度実施）による評価】

評価		評価理由	平均評価
ア	A	各取組とも昨年度と同規模以上で実施することができた。今年度は新たに高齢化集落等支援事業費補助金による離島振興に取り組み、またNPOおおいた環境保全フォーラムとの協働により、元猿海岸の整備や海亀の放流、外来植物の駆除など新たなことに取り組むことができた。以前からの取組も注力する時間を増やし、花の植栽や既存の観光資源の整備に重点をおき、受け入れ態勢を作ることに注力した。	A
イ	A	各取組はすべて新聞・TV・市HP・各種SNS等を活用しながら県内外に誘客促進に繋がるイベントや蒲江ブランドの情報発信を展開した。特にInstagramのフォロワーは2,000人を超え、1万回を超える閲覧があるなど非常に多くの方に蒲江地域をPRすることができた。また「蒲江観光創生協議会」や「かまえマルシェ実行委員会」を中心に県外や市内外で蒲江の食材を使ったイベントやPR活動を展開し、各種メディアを活用した効果的な情報発信を行うことができた。第4回かまえウォーキング大会では寒ぶり祭りに合わせて蒲江特産品の養殖ブリを使った試食を提供したり、SDGsの取組として元猿海岸の清掃イベントや海亀の放流会、蒲江地域のイメージキャラクターの制作など新たに行うなど既存資源の活用に取り組むことができた。	
ウ	B	かまえ道路整備促進期成会を中心として地元団体と協力しながら要望活動を行った結果、遅滞なく整備できている。しかし30年以内に発生すると云われている南海トラフ巨大地震による最大津波高は県下最大の13.5メートルと予想され大規模な被害が懸念されているが、主要幹線が沿岸部を走行しているため、この地域の被災軽減、強靱化には早期の全線開通に向けた要望を展開していく必要がある。また、地域コミュニティバスが整備されたことにより、地域住民の公共交通における利便性の向上が図られている反面、運航ダイヤの利便性を考えながら作成し、利用率の向上にさらなる活用を呼び掛ける必要がある。	
エ	B	旧蒲江振興局跡地の利活用については、離島航路利用者トイレ・駐車場が完成し、残地については公売により一部売却をしているがその後の進展はない。空き家については令和7年度の売買契約が2件にとどまっており、中心部の空き家・空き店舗の活用については、主だった取組には至っていない。令和7年度も既存施設の活用に取り組み、イベントで地域総合案内所や仙崎つつじ公園・高平展望公園を活用、また昨年度に引き続き毎月1回開催している元猿ビーチクリーンで集めたごみを一時保管するために元猿海岸の管理棟を活用しごみ収集車の集荷時に回収してもらえよう清掃課と連携して取り組んでいる。	
オ	B	令和7年度は大多数の地区が地域避難訓練を実施し、避難経路の再確認、要支援者の把握、消防団や防災士との連携強化など有意義な取組となった。 各自主防災会備蓄品の整備については、食糧品は更新時期があるため、各自主防災会とも更新整備の意識は高い。 ただ、食糧品の更新整備、資機材の追加整備を単年度に実施すると各自主防災会の負担が大きくなるため計画的な整備の推進が必要となる。	

【2-1 目標指標】

目標内容		基準値・年度		実績値【R7年度】	目標値(令和7年度)	目標値(令和9年度)
(1)	蒲江独自の新たな観光推進による観光入込客数	339,016人	R3	352,085人(実績)	384,204人	406,800人

【2-2 目標指標による評価】

評価		評価理由	平均評価
(1)	C	R7実績値352,085人(実績) R7基準値384,204人 R6基準値372,907人 ※R6基準値未滿 令和7年度の実績値については、各月各施設ごとの観光入込客数の実績値及び蒲江地域で開催された各種イベント等の来場者数をもとに算出している。今年度は昨年度よりも全体の観光入込客数は増加したものの、目標値には届かない結果となった。減少幅が大きかったのは「道の駅かまえ」の来場者数で、職員不足によるレストランの店休や目玉商品のPRが不足していたのではないかと考えられる。来年度以降は新たに「牡蠣小屋」を設置するなど予定されており、今後市としても積極的にPR協力していく。今年度最も注力した「元猿海岸」は来場者数が昨年度と比較し1.3倍の来場者数となり、イベントやPRの効果が現れている。また「かまえインターパーク」は昨年度の災害の影響による減少がなく、今年度は来場者数を非常に伸ばしている。ただ主要観光施設である「蒲江海上釣り堀 釣っちゃ王」が12月に閉店となった影響は非常に大きいものとなった。このため指標値ではDであるが平均評価はCとした。来年度も継続して各種メディアやSNSを活用し、道の駅かまえを中心とした観光施設や観光スポットなどのPRとイベント開催などを積極的に行っていく。	C

【3-1 重点プロジェクト】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

重点プロジェクト名	
①	人を呼び込む蒲江周遊観光プロジェクト

【3-2 重点プロジェクトの具体的な実施状況評価】 ※各振興局所管の地域活性化分野のみ

	R7年度に実施した具体的な取組内容と成果	R8年度に実施予定の具体的な取組内容
①	<p>新たな観光資源として整備・保全している元猿海岸にて「Beach Clean in元猿海岸」を開催した。海亀の産卵場所と希少植物であるグンバイヒルガオの生息地としての保護及び従来の海水浴場としての活気を取り戻すため海岸清掃イベントを開催し約100名の参加があった。元猿海岸で生まれた海亀の展示や放流や環境保護ブース、キッチンカーやごみ投げ大会なども行い、多くの方でにぎわった。また定置網にかかった海亀の放流イベント(約300人)やNPO法人おおい環境保全フォーラムと共催で海岸清掃イベント(約50人)も後日元猿海岸で行い、地元住民や市内からの多くの方が訪れた。</p> <p>蒲江の認知度アップのため、昨年度制作した蒲江地域のキャラクターのステッカーとぬいぐるみ(10体)を制作した。ステッカーは各種イベント時に配布し、ぬいぐるみは主要観光施設に設置した。またキャラクターは市HPやSNSに掲載し、蒲江ブランドの認知度向上を図った。</p> <p>蒲江のすばらしい景観と食をPRするため「第4回かまえウォーキング大会in仙崎・高平山」を開催した。市内外はもとより県外からも多くの参加があった(101名)。今年度は仙崎つつじ公園をスタート・ゴール地点としてコースを設定し、仙崎つつじ公園の認知度向上も図った。また高平展望公園では「寒ぶり祭り」の開催に合わせ蒲江特産品の養殖ブリを使用した「ぶり汁」や「ぶりの薫焼き」を提供し、非常に好評で蒲江の景観と食を多くの方に知ってもらうことができた。</p> <p>観光PR写真を収集するため「第2回かまえ”まるっと”フォトコンテスト」を開催し25名の方から59点の応募があった。また応募された写真はかまえインターパーク地域総合案内所にて「蒲江写真展「〇」」を開催し展示した。イベントにあわせ開催したことで多くの来場(約300名)があり、またこの写真展では撮影スポットを地図上に落とし込んで紹介することで蒲江全体の周遊促進を図った。</p> <p>SNS「Instagram」でのPRに注力し、季節の花やイベント、ドローンを使った風景や観光資源の紹介を行い、前年度比約1.8倍のフォロワー数(約2,030)となった。また観光だけでなく海岸や防波堤のごみ問題などもアップし多くの閲覧があった。</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> 1 R7年度と同事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 2 新規事業を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 3 改善を行う</p> <p><input type="checkbox"/> 4 その他</p> <p>※上記で1以外を選択した場合は、その内容を簡潔に記入</p>

【3-3 重点プロジェクト(R7年度実施)による評価】

評価	評価理由	平均評価
① A	<p>令和7年度の観光入込客数は海上釣り堀「釣っちゃ王」の閉店もあり、令和6年度の基準値を下回ることであったが、上昇傾向にはある。令和7年度もSDGsの取組と観光資源として復活の意味を込めたビーチクリーンイベントを元猿海岸にて開催したが、参加した小学生が総合的な学習の時間に海岸清掃をしたり、注意看板を制作したりと波及効果がとても大きかった。またNPOおおい環境保全フォーラムと協働して元猿海岸の保全活動を行ったことにより、ウミガメが産卵に来る際に邪魔になる流木の撤去などかつてないくらい美しい海岸とすることができた。また蒲江地域のキャラクターのステッカーやぬいぐるみの制作など新たな取組を行った。SNSのフォロワー数は昨年度の約1.8倍(2,030フォロワー)となったことも大きな成果であり、蒲江地域をより多くの方に認知していただくきっかけができたことは今後の誘客促進に大きな期待ができる。</p>	A

【4 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	課題と今後の施策展開について
A	<p>蒲江地域は重点プロジェクトとして観光入込客数の増加を目標に設定し「海の恵みを活かすまち蒲江」を達成するため、各種施策に取り組んでいるが、現在のところ各年度の観光入込客数は基準値を下回る結果となっている。</p> <p>目標を達成するために各種取組を関連付け、連動をさせながら取り組んできた結果、昨年度よりも観光入込客数は増加し、直近3か年では一番の実績になった。様々な取組の中で多様な業種の方との繋がりができ地域コミュニティも含め協力してくれる方が増えたことがやはり実績に繋がったと考えられる。今後も観光業や地元産業等に携わる若い世代と協議の場を設け意見を交わし、誘客アイデアの共有や連携、若い世代の盛り上がりを高めていく。また南海トラフ地震の脅威も刻一刻と迫っており、さらなる地域防災力の強化や主要幹線の被災軽減・強靱化などの対策や要望活動なども実施していく必要がある。</p> <p>今後も「海の恵みを活かすまち蒲江」として道の駅かまえ・高平キャンプ場・かまえインターパーク等と連携し、周辺の観光資源の再発見・磨き上げ・ごみ問題等SDGsの取組・情報発信や地域防災力の強化を行い、地域コミュニティ組織との協働も踏まえながら、地域全体の活力向上を目指していく。</p>



### ■ 現状と課題

依然として続く少子高齢化により、人口減少に歯止めが掛からず、地場産業や地域活動が厳しい状態となっています。蒲江地域の活性化を図るには、豊かな自然環境の活用や、地域や産業と関わりをもつ観光プラン・ルートの造成、ソーシャルメディア\*・SNS\*等を活用した情報発信が今まで以上に必要です。

空き家・空き店舗が年々増加し、閑散としている場所がより多くなっています。さらに、空き家が長い間放置されている家は崩壊の可能性もあり危険です。この地域に活気を取り戻すためには、企業の誘致やワーケーション\*等も絡めた移住及び定住促進などの活用策の検討が必要です。

さいきオーガニックシティ実現のために、今ある蒲江ブランドに加え、環境や住民の健康を守ること等オーガニックにつながる特産物を加えたブランド力を高める必要があります。

厳しい道路事情となっている蒲江管内の交通インフラの整備促進を目指します。

最後に、近年の異常気象による風水害や令和4年1月22日発生の日向灘沖地震を教訓に、今後発生が予想される南海トラフ地震の対策のために、地域の自主防災会と連携し、更に防災意識を高め災害に強いまちづくりに取り組むことで、住民や地域を訪れる人々に安心を与える地域を目指します。

### ■ これからの基本方針

- ア 自然体験型レジャー、地場産業の見学、地域（文化）資源などを絡めた新たな観光プランや観光ルートの開発に取り組みます。
- イ 蒲江ブランドにオーガニックにつながるものを加え、特産品などのブランド力を高めます。
- ウ 交通インフラの整備促進を図ります。
- エ 蒲江の空き家・空き店舗などを、企業や個人にワーケーション\*等を含めた利用をしてもらえよう各方面に情報発信し、誘致を図っていきます。
- オ 災害への事前準備や避難行動等が迅速に対応できる、強いまちづくりに取り組みます。

### ■ 主な取組

- A ア 蒲江の地域資源をいかした観光メニューの開発
  - (ア) マリンスポーツやトレッキングなど自然環境をいかした観光プランの確立
  - (イ) 水産業などの地場産業を絡めた観光の企画実践
  - (ウ) 離島（屋形島・深島）を始めとする滞在型観光の推進
  - (エ) 花木の植栽及び保護による観光資源の開発
- A イ 蒲江ブランドの情報発信と定着
  - (ア) ソーシャルメディア\*・SNS\*等を十分活用した、蒲江の食材を使ったイベントの実施
  - (イ) 関係者や関係機関と連携し、蒲江ブランドの発信と県内外でPRイベント、キャンペーン等を実施
  - (ウ) オーガニックについての研鑽・研修を重ね、蒲江ブランド力の向上につなげていく取組の実施
- B ウ 交通インフラの整備促進
  - (ア) 国道388号楠本工区及び県道古江丸市尾線葛原浦丸市尾浦間バイパストンネルなどの整備に向けた取組
  - (イ) 公共交通機関を活用した交通体制の検証・整備
- B エ 施設を活用した交流拠点づくり及び空き店舗活用

- (ア) 施設を活用したスポーツイベントやコミュニティ活動の推進
- (イ) 施設を活用した養殖業の研究など、あらゆる分野からの参入者の掘り起こし
- (ウ) 空き家・空き店舗の活用

## B オ 大規模災害を想定した防災・減災対策を推進

- (ア) 自主防災会、消防団、防災士等と連携し、地域防災力強化のための訓練を実施
- (イ) 住民や来訪者にわかりやすい避難路や避難地の誘導標識等を設置及び更新
- (ウ) 各地区の津波対策用備蓄倉庫配備品の賞味期限満了時の更新促進
- (エ) 避難行動要支援者支援プランに変更があった場合の自主防災会、社会福祉協議会等と協議
- (オ) 防災・行政ラジオの設置促進

## A ■ 重点プロジェクト

### 人を呼び込む蒲江周遊観光プロジェクト

観光客の減少や産業の衰退による地域経済、人口減少を少しずつでも改善していくため、観光スポットの再発見及び磨き上げを行い、今ある蒲江ブランドにオーガニックの食観光や特産品を加え、更にブランド力を高めていきます。また、蒲江を幅広くPRできる人や観光案内できる人等の人材育成を進め、蒲江と多様な関わりやルーツ・愛着を持つ関係人口増につながるようにSNS\*等の情報発信に積極的に取り組み、周遊観光を踏まえた交流人口の増加につなげていきます。

## C ■ 目標指標



R7実績：352,085人、R7基準値：384,204人

R6実績：345,695人、R6基準値：372,907人



蒲江背平山から屋形島・深島を臨む



かまえインターパークからの花火